

教科「国語」シラバス

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 国語 (科目) 現代文B	3単位	高3《必修》	<p>【教科書】筑摩書房版 精選現代文B 改訂版 『アップリフト 現代文 入試基本〔改訂版〕』（Z会編集部） 『入試頻出漢字TOP2500三訂版』（いいずな書店） 『イラストとネットワークで覚える現代文単語げんたん改訂版』（いいずな書店） 『新訂国語図説』（京都書房）</p>
学習の到達目標	<p>・入試に頻出する現代的なテーマを扱った評論を読み、論理的な見方や考え方を養う。文学的な文章を深く読み込み、主題・構成・心情などを的確にとらえる。以上を他者との関わりを通して深めていく中で、思考力や表現力を伸ばす。</p> <p>【知】【思】【主】</p> <p>・年度後半は、大学入試過去問題・予想問題（記述式・選択式 ※図表等の資料や複数テキストの読み取り・比較検討も含む）を扱った演習形式の授業を行い、総合的読解力や応用力を養う。【思】</p> <p>・漢字や語句、文学史の知識を、入試過去問題に触れながらより確実なものにする。【知】</p> <p>・希望進路を見据えて目標を設定し、授業を有効活用しながら主体的に自らの課題に取り組む。【主】</p>		
評価の観点	<p>実社会に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる語彙力・文章力を身に付け伸ばし、大学入学に求められる水準まで到達している。《知識・技能》……漢字テスト、定期考査</p> <p>「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。《思考力・判断力・表現力》……定期考査、提出物の取り組み方・完成度</p> <p>言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書等に親しみ言語感覚を磨き自己を向上させ、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。《主体性・多様性・共同性》……授業態度、提出物、自己評価シート、自主課題の提出</p>		

【定期考査における観点別評価について】
<p>年間4回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。</p>

【点数化が難しい科目や課題について】
<p>A：「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%</p> <p>B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの…… 80%</p> <p>C：「努力を要する」状況と判断されるもの…………… 60%</p> <p>D：未提出、未実施…………… 0%</p>

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考 査 ま で	①「『自然を守る』ということ」 森岡正博 ②「ことばへの問い」 熊野純彦 ③漢字小テスト(第1回～第3回)	①歴史や文化を扱った本格的な論説文と正面から向き合い、展開を追うことで考えを深めたり、自然と人間の関わり方について考えたりすることで、深い思考力を養う。 ②哲学的な内容を取り扱った文章を読んで、「ことば」の性質に関する考え方を深め、発展させる方法を学ぶ。 ③④指定された範囲の学習を計画性をもって自らの力で取り組み、正確な知識を身に付ける。	①・「人間」と「自然」の関係について考察する。 ・「自然保護」はどのような背景に基づいた思想であるか理解する。 ②・哲学的思考が生硬な翻訳語で語られてきたことの弊害について理解する。 ・文章の論理展開を確認することで、哲学的思考を超えた筆者の問題意識に気づく。
1 学期 期 末 考 査 ま で	①「貨幣共同体」 岩井克人 ②「急須」 南木佳士 ③漢字小テスト(第4回～第5回)	①抽象的な表現や比喻から、筆者の思想や主張を読み取り、人間や社会を読み解くための普遍的な概念を導く論法を学ぶ。 ②文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解する。登場人物の視点をとおして、世界のとらえ方について考えを広げる。場面設定や語りの特徴に着目し、その効果について考える。 ③④指定された範囲の学習を計画性をもって自らの力で取り組み、正確な知識を身に付ける。	①・貨幣と社会との関わりについて理解を深める。 ・自明と思われる社会の現実のなかに、法則を見出していく社会科学の方法に理解を深める。 ②・出来事をきっかけとした登場人物の心情変化を、比喻表現やモチーフを根拠としながら正しく捉える。 ・語句の意味や用法を的確に理解し、読解および自分の表現に役立てる。
2 学期 中 間 考 査 ま で	①入試問題演習 ②日本近代文学史(明治～大正) ③漢字小テスト(第6回～第8回)	①基礎レベルの大学入試過去問題(国公立・私立大学)を制限時間内に解き、内容把握や記述の訓練を行う。 共通テスト予想問題(論理・実用/文学)を制限時間内に解き、図表を含む資料の読解や複数テキストを比較検討する力を養う。 ②近代日本文学の始まりとその発展の過程を理解する。 ③大学入試過去問題・頻出問題に定期的に触れ、語彙知識を確かなものとする。	①「アップリフト現代文 入試基本〔改訂版〕」・共通テスト対策問題集
2 学期 期 末 考 査 ま で	①入試問題演習 ②日本近代文学史(大正～昭和) ③漢字小テスト(第9回～第11回)	①標準レベルの大学入試過去問題(国公立・私立大学)を制限時間内に解き、内容把握や記述の訓練を行う。 共通テスト予想問題(論理・実用/文学)を制限時間内に解き、図表を含む資料の読解や複数テキストを比較検討する力を養う。 ②近代日本文学の発展の過程を理解する。 ③大学入試過去問題・頻出問題に定期的に触れ、語彙知識を確かなものとする。	①「アップリフト現代文 入試基本〔改訂版〕」・共通テスト対策問題集

3 学 期 期 末 考 查 ま で	自宅学習	自宅学習	自宅学習
---	------	------	------

【成績評価の概要について】
<p>(1) 学期における評価の対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③ 平常点（漢字小テスト、提出課題、自主課題等）：50点（関心・意欲・態度などの評価） <p>(2) 学期評定の算出方法</p> <p>定期考査の素点合計200点に対し、平常点合計は50点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。</p> <p>(3) 年度末評定の算出方法</p> <p>定期考査の素点合計400点（1, 2学期分）に対し、平常点合計は100点（1, 2学期分）とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。（2学期評定も同様）</p>